

審議会等の会議結果報告

1. 会議名	平成24年度第5回美杉地区地域審議会
2. 開催日時	平成24年8月21日(火) 午後9時30分から午前11時30分まで
3. 開催場所	津市美杉総合開発センター1階会議室
4. 出席した者の氏名	<p>【美杉地区地域審議会委員】</p> <p>岡田郁子 海住佳子 芝山紀男 菅尾充孝 中川雄貴 中野雅子 中林優子 樋口康雄 峯田定夫 安木照子 横山勝代</p> <p>【事務局】</p> <p>市長 前葉泰幸 政策財務部長 盆野明弘 政策財務部地域政策担当参事 南浦康人 政策財務部地域政策課長 北川良治 政策財務部政策課 海住愛 総合支所長 矢倉千年 副総合支所長兼地域振興課長 田中稔 地域支援員 谷俊樹 地域振興課美杉庁舎等整備担当副参事 鈴木洋一 地域振興課危機管理担当副参事 田中敬二 地域振興課産業振興・環境担当副参事 峰田敏也 市民福祉課長 板谷敦郎 教育委員会美杉事務所長 滝加寿代 地域振興課地域振興担当主幹 田中文二 地域振興課総務担当主幹 中林生公 地域振興課地域振興担当副主幹 藤田千晃 地域振興課地域振興担当主事 渡邊孝史</p>
5. 内容	<p>議題</p> <p>美杉地域が目指す将来像について 津市総合計画後期基本計画について その他 閉会</p>
6. 公開又は非公開	公開
7. 傍聴者の数	1人
8. 担当	<p>美杉総合支所地域振興課地域振興担当</p> <p>電話番号 059-272-8082 E-mail 272-8080@city.tsu.lg.jp</p>

9.議事の内容 （下記のとおり） 会議録

海住会長

皆さん、おはようございます。

定刻になりましたので、ただいまから平成24年度第5回美杉地区地域審議会を開会させていただきます。

大変今年暑うなって、早よう終わらん夏かと思っておりましたんですが、よく考えますと美杉は秋に負けない夏の食材が豊富でございまして、大変おいしいものが、それから今日も峠を登って来ましたら、緑の山の手に入道雲がもくもくと上がっておりまして、雲と山のコラボが自然というやつ、ある日の夏ってこんなにすばらしかったんか、これは早く過ぎてもらうのももったいないと。残りました夏を楽しみながら暮らしたいなあと思って今朝も峠を越えて参りました。大切な夏の一日、今日は会場に皆さん全てご苦労さんでございまして。今日は特別、市長さんにご臨席を願いました。いい機会ですのでひとつ、この機会を活かしたいと思っております。どうぞよろしく願いをいたします。

それでは、座らせていただいて失礼をいたします。

いつものことながら、この会議は会長が会議の議長になるということでございますので、私の方で会議を進めさせていただきますので進行につきましては、ご協力をよろしく願いをいたします。

最初に、本日の会議は、委員13名中11名、2名の欠席で11名出席をいただいておりますので、会議は成立を致します。ご報告を申し上げます。

なお、当会議は、公開といたします。会議の傍聴、報道機関からの撮影等申し出につきましては、許可をいたしたいと思っておりますので、ご了承ください。

また、会議録を作成し公開を致しますことから、会議内容を録音させていただきますので、合わせてご了承ください。

次に、本日の会議録署名委員を指名させていただきます。

この前に続きまして樋口康雄委員、横山勝代委員、お二人にお願いをいたします。

それでは、事項書によりまして会議を進めさせていただきます。本日は、市長さんにご臨席いただいておりますので、前葉市長さんの方からご挨拶をお願いいたします。

前葉市長

皆さま、おはようございます。

今日は美杉地域の地域審議会にお邪魔をさせていただきました。

平素は、美杉の地域のために本当に熱心な、前向きなご議論をいただきますこと敬意を表する次第でございまして。ありがとうございます。

冒頭にお話し申し上げたい事が大きくは2点ございます。

1点目はですね、お手元の、こういう青いファイル置かせていただいたと思いますけども、これ4月13日にこの地域審議会をさせていただいたんですけど、その後ですね、総合計画の審議会ができております。総合計画審議会の方には海住会長に委員としてご参画をいただいておりますけども、この総合計画審議会の方をお願いをした私が、このようなことを考えていただきたいというお願いをした7点でございます。で、この海住さんの方から総計審の方の動きはこの地域審議会でもお話し合いいただいておりますけれども、大きくはですね1番に書いてありますように、後期の基本計画は10年間でやろうとしている津市の基本構想を尊重してやりますと。これは行政の継続性もあり、それから当然のことながら、私は松田市政をしっかり引き継いでおるとということからすれば、当然のことながら合併の時に約束しておること、それをきちんとやる、これからの5年間ということになるわけでございます。従って2番にありますように、合併の時にこういうふうにしましょうねって言うていたことをきちんとやっているかどうかということを確認していただいて、検証もしていくという時期でございます。

例えば、この建物を廃止して、前の美杉東小学校の所に新しい役場と総合開発センター、文化センターを造るということもこれも約束でありますからそれをきちんと着実にやっていくということが必要でありまして、そのことをきちんとやっとならぬかどうかということを確認していただく必要があるということでございます。

そして、3番4番ですけども、そうはいっても、地域の様々な課題がその後出てきております。これらについての対応をちょっと後で、これは美杉については特に申し上げたいというふうに思っています。

それから社会経済情勢の変化ということで、例えば高齢化が進むというようなことはもう当然、この平成20年ですね、この総合計画、その前に平成18年合併した時点でわかってはいるんですけども、その後どういうふうになっているかっていうことも当然考えていかなければいけない。

5番はですね、合併特例債というのがございます。これが東日本大震災の影響で少し予定とおりの事業ができないというところが全国的にも増えましたので、もともと被災地で5年延長されたんですけども、今回ですね、被災地以外の方でも5年延長される法案がこの6月に国会で通りました。従って合併特例債は10年の予定が、15年間で適用となったということでございます。これはちょっと後ほど申しますが、最終処分場のところに若干関わってまいります。

6番目。国県事業の連携による積極的な充実。これあんまりですね、市の計画の中で今までもあんまり言っていないポイントだと思いますけど、やっぱりあの矢頭のトンネルひとつとってみてもですね、国や県に同意し、きちんと連携

をとりながらやっていくっていうことの大切さというのがわかりますので、これはこの場であえて書かせていただきます。

そして対話と連携によるまちづくりの推進、これは私が選挙の時から掲げていることでございます。地域の皆さんの思いをしっかりと受け止めて事業をしていきたいという思いでございます。

こういうことを、7点お願いしたうえで、しからば美杉の地域でもともと課題とされていたこと、そして今現在の状況を受けて考えなきゃいけないことというのはどういうことなのかということをお聞きしたいというふうな思いまして、参上した次第でございますが、その前にやっぱり市長はこういうふうなことはこう思っているというのが伝わるとお思いますので、あと2、3分いただいてですね、ざーっと申しますと、まず名松線ですが、昨日の伊勢新聞でですね、ややなんか少し揶揄するような書き方もあったように思いますけれども、ただ考え方は県も市も全くぶれてませんので名松線きちんとですね、27年に向けて進んでやっていくと。JR東海さんも過去におけるいろんな鉄道じゃなくていいじゃないかという考え方があったのも事実ですけども、それを事実乗り越えて判断をしておりますから、これはもう全くぶれることなくやっていくということになります。その際やはり、あの新聞に書いてあったとおり鉄道が走り出す頃にその地域でですね、やっぱり一つの地域の起爆剤にならなきゃいけないのではないかとということですね。この際、起爆剤、名松線でもう一回美杉に外から人が来ていただくという、そういう一つのきっかけにしなきゃいけないのではないかと書いてある、それは事実そのとおりでございますので、その辺まで見越してですね、考えていかないかん。いま奥津の駅前のことで少し案内所的なものとかですね、物産も少し売れるような場所とか計画もしておりますけど、これもやっぱりそういうことも念頭においた動きであるということをご理解をいただきたいというふうな思いです。

関連して森林セラピー。当然これはやらなきゃいけないわけでありまして、ただ私もあんまりその山ガールとかですね、そういう何て言うんですか、時流に乗ったというやり方よりも、本当に美杉のこの森林自然の素晴らしさ大切さというのを少しでも多くの人に感じていただく、そんな場所にしていかないかんなあというふうな思っております。

それから、下之川なんですけど、リサイクルセンターが57億ですので、下之川最終処分場自体は93億、合わせて150億って大きな事業になっております。とにかく私が美杉の外で言っておる話は、イメージでこれまたですね、何で美杉みたいなきれいな素晴らしい所に最終処分場かっていうような話がよく出ますんで、それは完全なですね、要するに1滴たりとも水を外に漏らさないような、そういう密閉された、そういうところでの処分なんですよということ

を申し出ておまして、そういうことならというような、多くの市民の感覚がございまして、それをきちっと言っていきたくて、つまり先進的ですね、新しい時代の処分場であるということもきちっと言っていきたくてというふうに思っております。そのためにも若干の時間がかかります。28年は1期工事の完成です。もちろん、9万立米が先行して残りの部分は若干合併特例債の延長部分に関わってきますが、それでもなるべく早い時期その2期目やろうということです。1期、2期に分けてやらせていただきます。

関連して下之川バイパスとか、それから矢頭峠、これらについては併せて県の事業一式合わせて75億ということですね、150億プラス75億、225億の大きな事業になるわけでございますけれども、これは未来にきちんと我々責任を引き継いでいく事業になりますが、もちろん40年矢頭の方の山にトンネルができやんかなあって、ずーっと運動を続けてこられた下之川の皆さんの想いも勿論受け止めておりますし、それより、それもそうなんですけど、過去だけやなしに未来に向けてですね、やっぱりこの地域が美杉のこの地域が、将来に向けて持続可能な状態で次の世代に引き継いでいけるかどうかということのインフラだというふうに思っておりますので、これをしっかりやらせていただきたいと思っております。

道路のことを言えば、もちろん多気と飯南へ抜ける道だとかですね、もう他にもいろいろあります。それらは一つひとつですね、ステップを踏んできちっと話をして頭の中に入れておりますので。もう太郎生の368もあります。加えて伊勢地ですね、所川橋あれについては、治山の事業で進めていただいておりますので、この治山完了次第ですね、完了する前からか今仮橋を取りあえずしてありますが、この本橋のところへきちんと橋をつけ直すというような事で災害復旧を進めてます。

関連して、美杉小学校。これもまた大変ご心配を掛けましたけども、何とか今年中に治山の工事を終えていただいて、なるべく早く元の美杉小学校に戻っていただくということで、今年は卒業式を1日だけやってえらいお騒がせしましたけども、来年は本来の卒業式をしっかりとできるようにしたいと思っております。

それからあとは大きな話は、獣害対策ですね。獣害対策は、いま被害額が年間4千万。今年の津市の獣害対策の予算は4千6百万ということで、年間被害額を超える投資をしてるんですけども、なかなか決定的なところはできておりません。それはもう事実であります。ただ、この予算を投じなければもっともっと被害額が増えるはずなので、予算はしっかり取って、防護ネットでありますとか、柵ですね。それから猟友会にお願いしての駆除ということもやっていただいておりますけども、これもですね、どうもふわふわとした話にいきがち

ということで、若干こないだ三重県に行った時にですね、県の仕事と市町の仕事というのは獣害についてはありませんから、鹿が境界なくあちこち行くのと同じように、県も境界なくですね、やれることはどんどんやって下さいと、全部歓迎ですからと、言っておきました。県も一生懸命サポートしてくれると思いますので、これは市としてもかなり頑張っていきたい。そのためには例えばこんなことあるぞというようなことはですね、おっしゃっていただいて、我々もしっかりと受け取ってやっていきたいなっていうふうに思っております。

他にもいろいろあると思いますけども、私ばっか喋っても審議会が始まりませんので、これぐらいにさせていただいて、後はちょっといろいろと皆さんのご意見の中で、私がもう少し申し上げるべきことが出てくればですね、会議の中でお話しさせていただきたいと思っております。

ありがとうございます。よろしく願いいたします。

海住会長

ありがとうございます。

この後の議題に大いに関連してくることばかり言っていただきました。よろしく願いをいたします。

美杉地域が目指す将来像について議題に入りたいと思います。

前回と、また前々回で地域審議会の中で、地域かがやきプログラムに係る事業のこれまでの評価、また美杉地域における課題を踏まえて後期基本計画の策定に向けて、今後の方向性についてご審議をいただけてきました。

本日は、過疎高齢化する美杉地域におけるの安心、安全な生活、元気な地域づくり、地域資源の活用等地域の課題について、既にご論議いただいておりますので、これから当地域が目指すべき将来像についてのご意見を今日はいただきたいと思っております。

市長さんのお話の中にも関連してまいりまして、ちょうどご出席願っておりますので、委員各自のご意見を聞いていただいた後で、また市長さんからご発言をお願いしたいと思います。

この議題について、1時間弱の議論とさせていただきたいと思っております。細かい点はちょっと後にして、大きな点での美杉の将来像についてご意見を出していただきたいと思っております。よろしく願いをいたします。

菅尾委員

竹原の菅尾と申します。よろしく願いします。

僕、美杉地域が目指す将来っていうのはですね、やっぱりこの先暮らしてて安心で暮らせる町っていうのが僕は将来にあげて欲しいなっていうことなんですけど、その為には生活、最低限の生活ができる環境であるのが必要だと思うんですよね。過疎高齢化、美杉にとってどんどん年寄り、年寄りって言い方申

し訳ないかわかんないですけど、年寄り多くなって、車の運転できなくなるとか、病院や買い物に行けなくなるっていうのが考えられるんですけども、なんて言うんですかね、医療や交通機関に関してはですね、この地域にとってはものすごく切実な思いだと思うんです。高齢者の方も勿論ですが、僕たちのように子どもを持つ親や家庭にとってですね、休みの日とか、あと家で子どもをみてる時に怪我とか病気をした時にですね、病院の充実とか、病院や学校へ通う交通機関の充実がしていないとですね、なかなか暮らしづらいというふうな感じですね、安心して子どもを育てられるような、安心してというのが。それとですね、美杉は自然の中で生活しているんで環境はいいんですけど、健康も大事ですし、そういうのも考えて安心していうのを掲げて、目指したいなっていうような感じや思ってます。私ごとなんですけれども、お茶屋をやってみて、機械がですね、他の農業も一緒やと思うんですけども、機械が段々大型化してきているんですね。その時に、もしもの怪我の時にですね、救急対応ができないとですね、それも安心してここに居られないっていうのもありますし、それと、何て言うんですかね、健康の保健指導関係もきめ細かな、僕らや地域にに応じて対応してもらえるような、もう安心しか言えないんですけど、安心して暮らせる美杉町っていうのを目指して欲しいんです。

いろいろ考えていくと、行政に頼んでっていうのもあるんですけども、僕らが、自分たちが動かないとですね、これからはいけないなあっていうふうにも思ってますのでね。地域の産業とかそういうのを、僕もお茶屋やってるんでそういう技術なんかをこちらに移住してくれる人なんかには教えて、できる限り教えて活性化させたいなっと思しますので、そういう輝ける安心できる町にしていきたいなっと思えます。

海住会長

はい、ありがとうございます。

安心安全というところで、高齢化した人たちの足をどうするか、また一番大事な医療、この大きな二つの柱を言ってもらいました。前からもそれは出ておりますが、一番大事なところだと思います。

それに関連してでもよろしいし、他にこんな大きな柱が、言うてもらうところがありましたら出していただきたいと思えます。

中野委員

安心安全というのは、私は今までちょっと大きな意味でとらえてたんですけど、今日はちょっと改めて思いましたことは、今、太郎生からこちらに来る道で崖崩れがあつて、道をちょっと迂回させられたんですね。先ほど市長言うて下さったんですけど、やはり私は安心安全で美しい自然で、いろんなことを思ってたんですけど、これ元気であつても道が通らなければどこにも行けない、そ

これは私は今回、今日初めて、初めてやないんですけど改めてその道の大切さというのをね、実感しました。やはり山で自然があって素敵だなっという感情だけで暮らせない。やはり5月から太郎生の方にも、太郎生とどこですかね奥の方にドクターヘリが来て下さるようになったということもありますけども、やはり、やっぱり道というのはすごい大事やなど、元気に楽しく暮らしてても裏を行ったら崖が崩れてたでは、それではひとつの安心安全の生活ではないと思うので。やはりあの獣害も私はとっても大事なことですけれど、まずはやっぱりしっかりした道っていう、そういう田舎に住んでて常に思うのは、道さえいいのができれば若者たちも帰ってきてくれるだろうし、また都会からも、地道を直せとかそういう意味ではなく、やはり車が通れる道があり、そこからこう支線に分かれて各地域、その村々に入っていくという道があれば、例えばドイツのようなああいう高速まではいなくても、一本いい道があれば都会からも来やすいだろうし、ちょっと来るにも崩れてるような狭い道を今通らされてこう来たんですよね。やっぱり道づくりっていうのは私は、もうひとつ今までとちょっと違って、今日改めて思ったことなんですけれども、多気であったり、伊勢地であったり、太郎生であったり、道づくりっていうのもひとつ政策にしっかり入れていっていただきたいなあと、今日実感しました。

海住会長

はい、ありがとうございます。

横山委員

今市長さんがおっしゃっていただいたように、下之川では皆さまご存知のように最終処分場ができます。そして矢頭峠のトンネルをもう40、50m近く掘ってます。だからその時に、40年前にその活動を始めた時には、あの何て言うんですか、みんな出てってしまいますので矢頭さえ、抜けて道が良くなったら、親も子ども孫もひとつの屋根に暮らしができるっていうことで、その運動始めたんですけど、40年経ってようやくその光が見えてきたわけなんです。ほんであの道路も、すごく今ある道路だけだと災害の時にも孤立しちゃうんです。今も中野さんがおっしゃったように山崩れがして。だからバイパスっていうことで、そのバイパスにしましても意識の、こうはつきりしない人ですと、パッカー車だけが通る道だと思ってみえる方があるんですけど、常に市長さんおっしゃてみえるように道路は永久的にみんなが使える大切な道なんだってことおっしゃてみえるので、その中野さんがおっしゃったように道路をきちっとしていくっていうことが一番大切なことだと思います。そして津の市政要覧を見ていただきますと北畠がすごくクローズアップされて、大きなページを割いて作ってもらってるんです。だから津から一志美杉線を通って368への道っていうのを管理していただくと、津から北畠への最短距離になると思うんで

す。矢頭が抜けて処分場が完成する時分に矢頭峠は抜けるんですけど、波瀬の室の口バイパス、その間の3キロ余りの道っていうのがまだまだでございますので、するんでしたら一生懸命、今先ほど数字を上げていただいたんですけど、大きな金額を投入してやってもらってるので、それが完成して368まで、是非北畠への最短距離の道を完成して欲しいなって思っておりますのでよろしくお願いしたいと思います。

海住会長

はい、ありがとうございます。

中林委員

道路の話に限ってちょっと申し上げたいんですが、津市の位置から見て、今海の方で何か災害、地震からくる津波であるとかいう話で、香良洲の方とか子どもたちが避難訓練してるとかいう話を伝え聞くんですが、もしも何か大きな災害が起きた時に、美杉っていう所は山には囲まれています、かなり安全な地域ではないかなって印象があります。でも道路がもう寸断で、私は太郎生に住んでおりますけど、これだけ何十年も経っても昔の、その伊勢湾台風の時にヘリコプターで物資を運んできたっていう時代のことを主人から聞きまして、でも今でもあれだよ、もし災害起きて、たった1本の道路が潰れちゃったらとんでもない山に通り抜けて行かなきゃいけないし、ちっとも何十年前と変わってないんじゃないのって話をしてたんです。考えてみましたら、美杉っていうところは山は山ですけども、私に言わせたら中途半端な山だなど。本当の山岳地帯っていうような大きな山がそびえてるっていう所ではありませんし、平地とも言い難いし、ちょっと盆地ともいけませんし、それでしたら津の方から道路よくしていただければ、奈良の方へ抜ける道がもっと便利になりますと、今は観光バスなんかはどちらかというと太郎生通って名張から抜ける道よりは、奈良県を通過して大阪の方へ行く道を便利に使ってるように思います。ですから美杉がもっと整備を進めたら奈良県へも抜けられますし、それから多気から飯南の方っていうのも、これもなんとなく山を不自由なところ、ここがもう少し良くなったら多気の方もお宮さんやあの辺のお客さん減ってるって話ですが、この辺もかなり開けてくるように思いますし、いろんな意味で美杉地域っていうのは津市にとっては辺境の地ではなくて、かなりいろいろ財産を秘めた地域じゃないかなって思うので、ちょっと海岸よりやなくて、こっち側よりについていろいろみんな意見をお聞きして書いていただけたらと思います。よろしく願いいたします。

海住会長

はい、ありがとうございます。

菅尾さんの方から公共交通や医療の問題、それから中野委員さん、横山委員

さん、中林委員さんの方から道路の安全、この大きな三つの柱が出てまいりましたので時間も余りありません。市長さんの方から、今の意見でお考えの事を出してしてもらえましたらと思います。

前葉市長

三つほど、医療と道路と公共交通。

はい。では、座ったまま失礼します。

ええっとですね、まずその医療なんですけれども、三重大学、三重県がドクターヘリを今年の2月からスタートさせてまして、実はこれ2カ月単位で伊勢の日赤と三重大学でどっちかにおります。実は津市の伊勢湾ヘリポートから毎朝ヘリは飛び立って、どっちかの屋上に待機します。ですから美杉のどこであつても何か起こった時はですね、すぐにヘリが伊勢か津から飛んで来ますので、ものの10分くらいですね、そこらで飛んできます。非常に三重県内の救急搬送事情はよくなりました。2月に飛び始めて一番最初のヘリで搬送したのが、白山で子どもがやけどをしたケースで、それで三重大に運んだというのがありましたんで、白山、美杉方面は非常に搬送時間は短くなります。ただ、ヘリで運ぶほどじゃないところですね、もうちょっと手前のところで、その2次救急っていうかですね、1次救急、2次救急、3次救急って、命の危険がでるのが3次救急なんですけど、その手前のところですね、なかなか入院が必要なくらいの入院ケアというのは2次救急になったと思うんですが、これを名張の亀井市長さんがですね、あちらも医師の確保が大変なんですけど、医師の確保が少し目途がついたということで、今年からですね、特に太郎生なんですけど、皆さんを名張の病院に受け入れていただくということがですね、名張市長さんからゴーサインいただきましたので、これは今年からスタートいたしております。

これもですね、私も切実な話として、やっぱり太郎生からすれば圧倒的に名張が近くて、なるべく名張で受けてもらえればということで、これお互い様ですので、市の境に近い所ではですね、鈴鹿とも松阪ともそういう話がありますが、名張ともですねそのような話をしてまして、もっと言えば名張の救急車は、名張と伊賀の救急車はしょっちゅう165なり163なりですね、津に向かってえらい勢いで走ってますので、ああいうのを受け入れていることとお互い様ということで言えばですね、当然名張もやっていただければとってありがたいなと思っていたんですけど、これはもう亀井市長さんから早々と結論を出していただいてありがたいと思っています。

そういう時にも、道路の大切さとおっしゃるとおりでありまして、ずーっと368については各地域で課題がありますので、それは今年もまた確認をですね、国県なり、三重県ですねこれは、出向いてお願いをしました。これはあの息の長い話ですけどしっかりやっていきたいというふうに思っております。

そうですね、そこは中野さん言われた部分と中林さんおっしゃった部分とがですね非常に流れの中ではそうなんです。やっぱりネットワークにならないといけないと思います。そう思ってます。

それから公共交通なんですが、コミュニティバスですね見直しというのもやって、見直しといっても勿論廃止とかいうことではなしに、より便利なかたちで使っていただけるようなですね、コミュニティバスのあり方というのを今年検討してまして、来年4月1日のダイヤ改正にですね、路線も含めてですね、ちょっと考えてはどうかということになっております。これも実はコミュニティバス、9つの旧市町村単位で色んなかたちで走っているんですけども、結構それぞれの地域で特色がありましてね、曜日毎に分けてやってその路線とか時間とか変えられ、その結果住民も、お客さんというか住民の方にとっても一週間のスケジュールもだいたいそういう病院に行く日はこの日ですって決めておられて、月曜日なら月曜日の榊原からバスに必ず乗って三重中央へ行かれる方とかですね、いろいろな方がいらっしゃる。それぞれの地域でやり方があります。美杉の場合は広いので、いろんな工夫の余地が逆にあるんですね。ですからちょっとこの辺りも、今年だいが議論してもらっております。

この辺りもどうぞご意見おっしゃっていただいて、よりバスを使われる方の使い勝手のいいようなかたちで進めていただければと思っております。

ちょっと不十分かも知れませんがいかがでしょうか。

海住会長

ありがとうございます。

今市長さんのお話伺いながら、再度委員さんのご意見を聞きたいと思っております。ご発言を願います。

市長さんの方、他のご公務もおありですので10時半ごろには。

盆野政策財務部長

10時半に出れば大丈夫ということで、いろんなご意見せつかく頂戴して。

海住会長

と言ってみえますので、それまでにご意見がありましたらご提案お願いします。

樋口委員

伊勢地なんですけども、商売、自動車の方やってるんですけど、先ほど中野さんでも中林さんでも道路のこと言ってたんですけど、私のところもインターネットでいろいろ情報発信して色んなところからお客さん見えるんですけども、その途中までね、やっぱり津の方から来ても途中で道路が狭くなる、それでちょっと迷ったりするっということよく耳にするんですけども、やっぱり道路もやっぱりきちんとしてもらって、この美杉の自然っていうのは一番宝かなと思

うんです。森林セラピーとかいろんなことやってみえるもんで、本当に美杉はいいところだっていうのを、津の方から来たお客さん、ここも津ですけど市内から来たお客さんにいろいろ自然を見せながら仕事さしていただくんですけども、やっぱり今インターネットの時代ですので、やっぱりそういう発信にするんですけども、途中やっぱりちょっとそういう道路とか、それが心配かなって思って。だけど自然はやっぱり大事にして、お客さんをホッとさせるというようなそういう場所になって欲しいな、そのような感じ、ああちょっと良かったなっていうような気持ちで帰っていただくような場所かなって思うんです。だから、道路ちょっとして欲しいかな、途中だけですけどね。そやでやっぱり、うちの子どももこっちからいろいろ情報発信して、こないだも津ボートの方で美杉の宣伝を兼ねていろいろ活動もしてとるんです。なるべくいろんなところからいろいろ発信するような、そういうことを美杉の若者もやるとする事を市長さんに知って欲しいなと思います。

海住会長

他にどうですか。

芝山委員

先ほどから聞かしてもうてるんですけども、はっきり言って合併してこの地域は本当に金の掛かる地域やなと感じていただくとおもうんですわ。

前葉市長

率直に言うと、そうやと思います。

芝山委員

そうですね。

ところがですね、美杉、確か207平方キロあるっていう広い中で、先ほどから市長さんにも将来に向けての持続可能になっていうことを言うていただきましたし、次世代へ是非そういったことを受け継いでくということ言うていただいて非常に私ホッとしたんですけども、実際みてみますと、もう高齢化が進み、この広い中でそれぞれ点在してる中で、あと数年もすればこの地域は文化と歴史のまちだったと過去になってしまえせんのかと、そして言うたらいろいろこうあるんですけども、人がおらんようになって、松尾芭蕉の歌にもあったんですけども、私夕べ思たん、この夏草や百姓衆が夢の跡というふうなことも感じたんですわ。というふうに、それに人がおらんような地域になってくんやないかと、そしてそれまでには各地区で点在しておる人たちがおると。その方らは今現在みえるんですけども、ゴミの収集日のゴミもほりに行けないような状態の人がいるんですな。そやでそういった本当にこういろんな制度で守られていても、もう少し、例えば足をくじいたらその医療の方でしてやると、けど家に帰ってく時には今度は買い物にも行けないとか、通院すらも問題なってく

るような本当にそういったことが起こってきますもので、もしそれやったら、私も前ちょっと話もしたんですけども、このいろいろ点在しているところをある程度こう集落的なものをひととこに集約して、つまりひととこなりふたとこなり、集約してくような方法もひとつって言いますか、何かといった先進地としての日本で本当に先進地としての、そういった豊かに、心豊かに暮らせる村と、まあ村、まちでもよろしいですけども。そういった本当に先進地的なものを取り組んでいただくことができないかなというふうで思いますんですね。というのは、やっぱりある程度今その絆って言いますか、前から言っているんですけども、絆というのが随分今実際薄れてきております。この地域で。というのは、やっぱり余りにも生活に追われ過ぎとんか、ということもあるんですけども、その絆が一番田舎での、その特権っていうたらおかしいですけども、一番良かったその絆が薄れて来るっていうふうな状態は、もちろん距離的なものもあるんじゃないかと、それであればある程度村を特区として取り組んでいただいた時に、その地域地域のある程度集約していく中でいろんな見守りもできますし、交通問題とか他の問題も解決されてくるんじゃないかということでひとつのこれも方法ではないかというかたちで提案をさせていただきたいですけども。

ちょっと上手く言えませんがそのような。

中川委員

いいんですか。

美杉地域が目指す将来像ですけども、僕は今28歳で、今人口5,400人代ですか、僕小学校の時8,000人いたんですよ。それでこれ今50%以上が65歳以上高齢者っていうことで、30年後って半分なってんのちゃうかなって思うんですよ、人口が。今過疎化がどんどん進んで行く中でこの地域づくり、計画っていうのがいろいろされてはいらっしゃると思うんですけど、根本的に過疎化を脱却するっていうか、人口増やすっていうようなそういう策っていうのは、何かあるのかなって、ちょっと疑問に思ったりするんですけど。てのは、僕は個人的に思うのはですね、今森林セラピー事業を旗上げて美杉町が推進してやっててもらってるんですが、やっぱりその美杉全体を巻き込んで雇用とか増やせるようなひとつの事業っていうのを考える必要があるのかなって思ってて、うちホテル、商売やってるんですけど、例えば美杉の野菜を使いたいっていうふうになっても量がないんですよ、まず。個人単位でやってるところは沢山あるんですけど、おおきい商売としてやってるところというのはほとんどないから、例えば農業やったりとか林業やったりっていう、その1次産業をもうちょっと活性化していく必要があるのかなというふうに考えました。でまあ、その1次産業活性化していったら、今移住プロジェクトであったり

とか、空き家バンクとかいろいろあるけれども、その環境保全であったり、そういったもの全部包括的に考えて進めていく必要があるんじゃないかなって、ちょっと漠然としてますけどそういうふうに考えてます。

要は、もう人口はとにかく増えんことには将来がないんじゃないかと思いません。公共交通機関であったりとか、過疎化に対応してコミュニティバスを改良させていくっていうのは、もちろんやっていくべきことだと思うんですが、それと並行して根本的に人口増やしていくっていうこととしていかんとあかのちやうかなっていうふうに考えます。すいません。

海住会長

はい、ありがとうございます。

あの、二人の意見は、過疎対策っていうか過疎の一番根本的な問題を言っただけでしたが、ちょっと市長さんのお話を、ちょっと待ってもらって岡田委員さん。

岡田委員

すいません。

私、芝山さんや中川さんの意見とよく似てるんですけども、今もう歳いった方が二人で90歳近くなった方が、もう百姓もして、二人でいるあいだはなんとか大きな家も守ってやってるんですけども、この方一人になった場合、一人が居なくなったら一人で家で住むっていうことが難しくなって、たくさんある百姓も人を雇うこともできないし、屋根も漏ってくるしっていうので、近頃、ひとりになった方を引き取って、町の方へ行って町の方のケアセンターに通わしていくっていう事が出てかれる方が多いんです。そうなるともうたちまちその家は雨漏りして、もう空き家バンクの何も家が大き過ぎて入れなくなってしまいます。そういうふうなんで、農地を何とかみんなが使ってひととこで、その知らない、百姓をできない人でも寄って来るみたいなものができるような場所を明示してもらって、そこの家が一人で、人を雇ってできるということができなかつたら、たちまち草ぼうぼうになってくと思いますので、そういう土地を出してきてもらうかなんかで、やれるような方法考えていただけないかなと思いました。

海住会長

はい、ありがとうございます。

その岡田さんの意見と過疎の考え方になっておりますが、それに関連して何かありませんやろか。

中林委員

何回もすいません。

私、芝山さんのご意見を毎回聞かしていただいて、本当に胸が迫るような気

持ちがすることがございます。で、多分、中川さんの言われた事も、希望をもって生きようという政策、そうしましたら例えばその、今検討中のコミュニティバスであるとか、鉄道路線のことであるとか、そういうの必ずしも年寄りだけに向けてどうこうっていう問題じゃなくて、例えばその何かの事業した時の雇用の方を巻き込んでその利用っていうようなものを含めた路線の計画とか、それから岡田さんが今おっしゃったような空き家の問題っていうのも、どの地区でも差し迫った問題で、本当に家の周りにもお留守のお宅が増えてきております。だからそういうことも含めて、難しいでしょうけども、過疎化と高齢化のっていう問題とそれからそのとにかく仕事がないもんで若い人が住みつかないということとそれを突き合わせて、そして芝山さんもおっしゃったような、何かこのままじゃいけないっていう気持ちを持ち寄って、大きなグランドデザインみたいなものをじっくり考えていく、そういうあの、それこそこの地域審議会も大変有意義だと思うんですけど、そういうこう何か見通しが立ったもので、こう近づいてきたら、もう家が空いてしまって困ったなあ、何とかしたいなあっていうことも含めて、何かこうプランを立てられるような寄り合いっていうか、会議っていうか、そういうものが欲しいなっていうふうに思います。そりゃあもう、行政の方も一生懸命考えてみえるでしょうけれども、多分ここにお集まりの委員の方は、ちょっとこの手の届くようなはっきりしたものが始まらないものかなっていうふうに思われているんじゃないかと思います。

海住会長

はい、ありがとうございます。

具体的な対策、何か一步でもという切実な、本当にみんなが思っている事だと思います。

あの時間が迫ってきましたが、最後に横山委員さん。

横山委員

はい。

私、芝山さんがおっしゃった、以前からおっしゃってみえるんですやろ、高齢化の方っていう。あの津市の中でもどこにもないほど美杉は高齢率が高くて、下之川なんか60.2%です。全体でいくと50.6%ですけど。だから、その高齢者の人が点在して一人ずつ住んでるんじゃないしに、そのなんとか集まるようなところ、それも津市の中で高齢者の先進地として何か、これまで芝山さんがずっとおっしゃってみえた特区的なことを考えて、全国から高齢者はこうあるべき、こう直したらみたいなことを考えていただいたらいいんじゃないかなっていうふうに思っておりますのでよろしくお願いします。

海住会長

はい、ありがとうございます。

尽きぬことばかりで大変大切なことですが、時間の方がもう予定入ってまいりましたので、市長さん一つ最後に。

前葉市長

はい。最後になりますけど、ちょっとお返ししますので、いやいやそれちょっと違うぞっていうことあったらですね、もうちょっとおっしゃっていただいた方が対話になりますので、その方がいいと思いますんで、ちょっと私の方でコメントさせていただきますが、最初樋口さんが言われた情報発信なんですけどね、そのとおりでありまして、今ちょっと情報発信の角度を少し今変えてるんですよ、津市全体ですけれど。どういうことかと言いますと、例えばイメージの問題がありまして、三重県の人っていうかね、この辺りの方、特にそやって思うんです。非常に厚かましさが足りないようなところがあって、一番象徴的な話しますと、県庁に行ってますね、シティプロモーション、津市のイメージアップですね、とても大切なので津市のいいところ、美杉の自然もいいし、津市の鰻も美味しいしというようなことをね、どんどんまあ何て言うか恥ずかしがらずにアピールしましょうやないかと。で、まず第一歩、県庁の職員が三重県外に行った時に、三重県の県庁所在地が津ですねと、で、津って何にもないところですねって言われた時に、県庁の職員が何と答えたかっていうたら、そうなんですよ静かで何にもないところなんですよって、夜もさみしいんです。同調してへんかっていうことを知事に言うたんです。それを止めて欲しい。いやいやそんなことないですよ、三重県の津はですね、最近企業誘致もすごくうまくいってますしとかね、あるいはセントレアへ45分で船で行ける港が、これはもう津の市役所からものの5分で着くところにあるんですよとかね、近鉄特急が全部停まるようになったんです、名阪ノンストップじゃなくなったんですよとかね、そういうようなこと一つとってみても全然違うんです、相手の印象が。だからまずそのいいイメージをですね、遠慮せんと恥ずかしがらずにアピールする、それをちょっとこれは何て言うんですか、まずその相手に同調するところから始められて、いやそんなことないというふうにね、言い返すところから始めて欲しいって言うふうに言うたんです。例えば美杉の観光について言えばですね、いいところをもっと遠慮しないで言うたらええのですよ。例えばですね、大洞山とかですね、フットパーク、ああいうような所は過疎債で造って、美杉村時代にですよ。それこそ、天文台なんて本当に当時、ふるさと創生なり、平成バブルって言われた頃に美杉村のような立地条件の村でたくさん、割とできたものですね。で、大体もうぼちぼち忘れられつつあるんですけど、あそこは考えてみればものすごく行きたい人にとってはとても行きたい場所なんです。自然の中でキャンプするっていうのがとてもやりたい人があって、美杉にもそんなところあんのかっていうような、新たな発見とかあるわけなんです。そうい

うのをもう遠慮しないで、そいで昔はそしたら分かりましたパンフレット、ひとつ地図を作っていて、一枚の地図なんか出てくるんですけど、そうと違って今時は、そういうことをインターネットなりでバーンと出して、みすぎんがブログでつぶやくとかね、そういうようなことで紹介するとかですね、そんなようなことやったら。それをうちで営業部門最前線、首都圏本部についての東京事務所ってのがあります。そういうふうには東京事務所のPRの姿勢を変えまして、今東京事務所のページを開けていただくと東京事務所長が毎日ブログを書いているんですよ。前半はですね、大体今日は暑かったですねとか、東京でパレードがあつて50万人の人が寄って私も行きたかったですけども地下鉄降りるところが分かりませんでしたとか、そういうようなしょうもないこと書いておるんですよ。後半はですね、とっても素敵なお話書いてあります。ところで津の名物で美杉最中っていうのがありますよとかね、まとめて書いてあるわけですよ。東京事務所発のメールマガジンもそういうふうになってますし、現代風に、今風にやる、ただ材料であるものは昔からのものでいいということだろうと思いますけどね。従ってちょっと飛びますけど、最後の横山さんの言われた高齢化の先進地みたいな話も多分、美杉は高齢化対策大変や大変やというけど、考えてみれば一番最初に進んでるのかもしれないわけですよ、51%の高齢化率っていうことは。ただ、その中で何もかもが素敵なもの、すごく全てうまくいってるなんてのは難しいんです。ですけど、美杉でうまくいってる、高齢者の方が、満足しておられる。それは何でかって考えてくれば、こういうことなんやなあとかですね、こういう部分が絶対に美杉うまくいってるよねっていう、ええ部分、いい部分を例えばそれこそ広報なんかでね、うちのあの広報使ってアピールするとかですね、美杉のこういうところが実はうまくいってるんです。というのはなんでそう思ったかという、例えば中林さんが言われた空き家の問題とか、芝山さんが言われた集落再編整備。これは実は津の、旧津でも旧久居でも出てる話です。こないだあの旧津で空き家対策、ものすごく問題になって、同じなんです。団地であつてもね、空き家が出る。その一人になって確かにおっしゃるとおり、一人になってその一人が息子のところへ同居して、お母さん一人では置いとけやんとかですね。そしてその家が空き家になってくるとかですね。で、その同居した息子が津におらんだらですね、大阪や名古屋や東京やったら、もうその津の家っていうのは放つたらかしになるわけですね。そうするとそこでなんかこうちょっと崩れかかってくるとかですね、そんな話、同じなんです。そんな街中で考えても放っておく話なんですよ。それを美杉では、もうちょっと早くから思ってるという話、そのとおりで、集落再編の芝山さんの話もそうで、どっかに集まって住んだ方がいいんじゃないっていう話は、例えば私の生まれ育ったど真ん中の大門でさえ起きてきている話

で、大門の店は、なんでシャッター閉まっとんのかっていうたら、あそこに住んでいる人がいるからなんですよ。住んでる人がもう高齢化して、そして息子や娘はサラリーマンだったり、あるいはそこを離れていったりして、でもここに住み続けたいから、あの2階でおって、店を開けられないからシャッター閉めとる状態なんですよ。そうすると、これっていうのは一体我々が考えなきゃいけないのは、その人と人の絆の話もそうですけど、土地っていうかその家なんか土地との絆の話もあるもので、これはなかなか切れないわけですよ。簡単にもうおばあちゃんとか一人になったであんたちちょっとこっちへ出て来て一緒にこの際、集団の中で住まいて言ったってなかなかここは先祖代々守ってきた土地やしっていうような事もあるわけですよ。ですから、その辺りも含めて何かこう美杉でこの全てに解決するようなね、アイデアはなかなか難しいかも知れないですけど、こういうやり方で成功したらどやろとね。昔から、今まず若者住宅入りたいと、だから40歳までなんですよ入っていただくっていう公営住宅なんていうのも、もう美杉村時代からよう考えてある施策やと思うんですよ。普通の市営、市内にあるやり方と違うやり方でやったでしょう。これは今の津市で引き継いでいるわけなんですよ、こういう何か上手くやるやり方っていうのを考えなきゃいけないなということだろうと思います。

で、芝山さんはそのだから金が掛かる地域ですって、だからこそ合併が良かったわっていうことにならないといけないと思うんですよ。何故かという、金が掛かるんで過疎債とかいろいろ三重県とかで応援してきたのが、国や県の施策だったわけですけども、合併津市の7分の2の面積になった時に、例えば津市全体としては28万都市になったとなつて、例えば災害が起こった時なんか津市の総力がブアッと美杉に導入されたら、やっぱり早いと思うんですよ復旧も。それから福祉もそうで、とにかく一番進んでいるところなんで、津市の福祉の知恵と能力を総結集して美杉の高齢者の方がお困りにならないように介護を必要とされる方々ですね、本当に家に居てなるべく長く家に居て介護を受けられるようにとかですね、そんなにしたい、そういうことですわ。ですから、是非そういうことで美杉がそのフロントランナーになれるようなですね、そんなまちづくりが私としての想いです。それから中川さん言われた定住人口増やすのか、交流人口増やすのか両方あると思うんですよ。ですから、ホテルの方で交流っていうのを国際的な交流までね、人口はあれはあれで、外国人のお客さんも来ていただいとるっていうふうに聞いておりますし、そういうようなことをやっぱりひとつひとつ増やしていく事によって、そしてもっとそれが知られてもええような気がするんです。美杉の観光ルートの中ね、外国人のバスはこういうふうに動いて、美杉で実は泊って、翌日こういうふうに出るんですよっていうことを調べたら、今度は日本人が来るような気が

する。外国人、そういうふうには思っただけで日本人が、例えば名古屋、大阪の人も。じゃあ私ら受け入れてみよとかそういうふうになったら、ちょっとそれもひとつのアイデアです。

それから、そうですね岡田さんが言われたところの土地を守るとか家を守ってという話で、もうそこでですね、これはね、ものすごく頭の痛い課題です。私は最終ですね、土地を放棄された農地は直営になってくる。会社みたいなものを作ってやるんです。JAさんとね、私、JAさんの関係の偉い人たちに会うたびにその話してんです。で、JAさんは、いやあそんなとでもとでもって言うけど、5分話しといたら、そうなんですよ市長言うとおりはね、JAがそういうことやらないかんの違うかなと本当は思っただけで言うところまでいく。だからやっぱりJAかどうかは別にして、やっぱりそういうことだろうと思うんですけど、農地をどうやって管理するか。山も同じなんですよ。山も最後は個人の山って言ってもやっぱり環境の為に守らないかんとということになるんです。それはやっぱり交点があるところなり、なんなりと役割があるということをおもっています。

すいません、ちょっとあの、いろいろ申し上げましたけども、あと5分居ますから、今の話の中でちょっとちがうぞつというようなことが、もうちょっとこういうこと考えてつというようなことがあったら、どんどんおっしゃって下さい。

海住会長

時間が迫ってまいりましたので、どうですか。

これはもう絶対今逃したらつというご意見ありましたら。

よろしいですか。

今日はありがとうございました。

前葉市長

すいません、ちょっと最後に一言だけ申し上げることあるんです。

ありがとうございました。

もう本当にあの、地域の課題というかですね、何がいま美杉で大切なのかということで、本当にいろんな角度から聞かしていただきまして、よく分かりました。ありがとうございます。

それで、総合計画にですね、美杉のことをどう書いていただくかの話。これから多分、かがやきプログラムの話をさせていただく、これはこれでしていただきたいというふうに思うんですけども、これに加えてですね、是非美杉地域、美杉っていうところ、村の時からこういう事が課題で、それで18年、合併してからこんなようなことが進んできたよ。でも一方で、こんなような話、課題も出て来て、あるいは地域の状況こんなふうになってきた。従ってこれからこ

ういうふうな方向でね、新しくせなあかん感じ、いま話していただいとるようなことをやっぱりですね、なんか文章化して、それで審議会の方に総合計画の審議会の方に出していただく、ここから出していただくと総計審もそれをきちっと受け取って、美杉のページみたいなんをきちっと作ると思うんですよ。で、そういうふうにしていただいた方が多分ですね、今の時点でこういうふうに言っておられることをきちっと残して、そしてそれこそ、その次につなげていく。中林さん言われたように、なんらかの新しい動きしなきゃいけないんで、それはここで一応議論聞かしていただきたいと思うぐらい、非常に的確に伝えていただけると思いますんで、是非そういうかたちで総計審の方に渡していただければと思っております。

それとともに地域審議会としては、主に引き続き美杉地域のことを非常に真摯にご理解いただいておりますことに感謝を申し上げながら、これからもなんとミスも多かったなと気軽におっしゃっていただいて、ものづくりよろしくお願ひします。

どうもありがとうございます。

海住会長

ありがとうございました。

短い時間です。熱意を持って取り組んでいただいておりますこと、改めてみんなで市長に感謝申し上げたい。

お忙しい中、どうもありがとうございました。

前葉市長

なかなか至りませんで、一生懸命やりますんでよろしくお願ひいたします。

どうもありがとうございました。

失礼します。

海住会長

ありがとうございました。

いま、市長さんの方からご意見が出ておりましたのですが、前回までと、それからまた今日議論していただきましたようなことは、美杉地区地域審議会の意見として津市の審議会の方へまとめてそのご意見を出さしていただきたいと思ひます。

そのまとめにつきましては、私と副会長さんでまとめさせていただきましたのを後日皆さんにお配りをしまして、ご了解をいただきましたら9月に入りましてから、9月の中頃にそれを津市の方に提出をしたいと思っております。それでよろしいでしょうか。

各委員

よろしくお願ひします。

海住会長

それでは次、1時間ほど、1時間弱、次の津市の総合計画後期基本計画について、事務局の方、提案をお願いします。

田中地域振興課長

それでは、津市総合計画後期基本計画についての部分ですけども、前回、前々回の地域審議会でご協議いただきました南部エリアの地域かがやきプログラムにおける後期計画への意見を集約いたしまして、それぞれのプログラムの記述をお手元に配らせていただいております資料として作らせていただきました。

本編の方で書かれている部分、それに対応いたしまして右側の方にこういうふうな記述の仕方ではいかがかということで、事務局として完成させていただきました。

なお、本日市長のお話、あるいは各委員さんのお話を含めまして、後日また修正なりする部分もありますけども、現段階の分をさせていただいておりますので資料をもってご説明をさせていただきます。

当初から整理しております南部エリアの部分でございます。

まず、健康で元気な人づくり。そのひとつとして連帯意識に根ざした心豊かなコミュニティの形成というふうな部分で記述をしてる部分でございます。この部分につきましては、当初過疎化高齢化進行するなかというふうな言葉を文頭にもってきておりましたが、現状の中ではもう進行もしているというのは周知の事実でございますので、この部分を取りまして高齢者の豊かな経験や知識を活用し、地域団体NPOなどとの連携した心豊かな地域社会の形成を図るとともに、現状に応じたコミュニティのあり方や地域活動など地域内外における人材の活用を積極的に誘導しながら、人と人とのつながりを大切にしたい心豊かな地域コミュニティの形成を目指します。とっております。この中には前回からお話されましたように地域団体、NPO、NPOについては現在ございませんけどもこういった団体出てきた時に、あるいは地域団体につきましては当然各地域で活躍して活動しております地域づくり協議会をはじめ、勿論老人クラブの方々、また大きくいえば自治会組織、そういったところも含めた考え方をもっています。それから現状に応じたということですので、本当に今過疎と高齢化している各地域、集落機能そのものの再生、そういったものも目指したということもこの文章の中には復元させていただいたというふうに考えております。

また、皆さまの方でもう少し違うところがあるよとか異議のあるようなところがありましたらお話を伺いたいです。

続きまして、次のページでございます。これは変更、現在この部分はないかと。2番の項でございますが、暮らしの安心づくりという部分でございます。

ここにつきましては、地域づくりの健康づくり支援や高齢過疎地域における地域医療制度の確立及び地域の実情にあった公共交通システムの構築に向けた調査研究、現在も対応しているところがございます。及び事業の推進を図り、暮らしの安心づくりを進めます。

それから美杉総合文化センター事業建設に着手し、行政、防災、コミュニティ、保健、文化等各種機能有する複合施設の整備完了に向け、市民委員会とともに着実に事業を進めます。ということで、当初考えておりました文面を整理させていただいた記述案としております。

次の3ページ目でございます。これは、二つめの項目プログラムとしまして、自然の恵みの価値創造、その中の森林を活かしたヘルスツーリズムの推進。それにつきましては、文面は前半部分につきましては前期と同様でございますが、後半、また地域住民と協創し、共につくり上げるという考えです。協創し、セラピーロード等の整備や基地活用促進のためのPR事業を進め、交流人口の更なる拡大に努めます。というふうな文言を設定させていただいております。

つづきまして、次のページでございます。2番の項のカッコ2、自然を活用した産業の活性化。これに対しましては、前期の中にバイオマス等を活用した地域循環型産業の拠点形成を目指し、バイオマスタウン構想の検討を行うとともに、ICTを活用したテレワークとテレワーク事業の具体化に向けた検討と特産品の生産、販売拡大のためのブランド化とこれを活用した集客交流、森林などを利用した自然体験やオーナー制度の導入など、新たな産業の創出を図ります。というふうに記載を進めてきたわけですが、美杉の現在の状況の中でできうるということ、ということで、新食材を開発するための調査研究のため、既存の地域特産品の生産、販売拡大を図るためのブランド化とこれを活用した集客交流、森林河川、農地の環境保全を目的とした自然体験など、新たな産業の創出を図ります。というふうに変えさせていただいております。

2番の項の3番目に、次のページでございます。3、豊かな自然環境の中での居住ということで、空き地や遊休地を活用し都市住民が居住できるように二地域居住を促進、これを定住に結びつけていくため、田舎暮らし体験塾の開催や空き家情報バンクの整備などを推進し、豊かな自然の恵みを求めて居住できる環境整備を図ります。というところにつきましては、田舎暮らし体験や田舎暮らしアドバイザー等の制度を活用した空き家情報バンクの一層の利用促進と空き家等の地域づくり拠点施設などへの利用により、空き家の解消による移住交流事業の推進を図ります。また、空き家情報バンクの更なる利用促進のため、空き家改修費補助制度を推進するとともに、登録者数確保のための新たな制度創設を図り、豊かな自然の恵みを求めて居住できる環境整備を図ります。というふうに記述をしております。

南部エリア最後の部分でございます。歴史と文化の拠点の整備。これにつきましては、調査研究の進む多気北畠氏城館跡を中心として、ふるさと資料館、道の駅周辺等の歴史文化のネットワークづくりとともに、地域の伝統文化を活かしたイベントや講座を開催するなど、歴史と文化の拠点整備を進めます。こういうふうな文書内容になっているところへ向けまして、右側の方でございます3行目の方で、歴史文化の継承を地域の小中学校と連携して取り組むなど、歴史と文化の拠点整備を進めます。というふうに学校教育との関連も書かさせていただければということで、教育事務所とも相談し、こういう文言を考えさせていただきました。

最後でございます。住民との協働による歴史文化の保全活用。これに関しましては、歴史の道百選に選ばれた伊勢本街道の道標、道しるべ、家並みの保全活用、有形無形文化財の保護と史跡の管理、文化の伝承活動を進めます。関係部局や三重県とも連携し、地域住民が主体となった歴史文化が息づく地域づくりを進めますということで、記述書の中では後期に向けての案の中では、2行目、また、地域の歴史文化を活用した桜まつり等の地域づくり事業の継続援助を図ります。ということで、この文の中で現在行われております桜まつり、秋まつりこういった部分を地域住民と協働によるものということで文面に入れさせていただいた具合でございます。

また、これに関しまして皆さんのご意見を伺いまして、また本日の協議の内容等も参考、入れさせていただいた上で最終的にこの案を総合計画作成の時の事務局としてもっていきたいと思っております。

また、それにつきましては試案が作成されましたら、また皆さんにご確認をいれたいというふうに考えておるところでございます。

以上でございます。

海住会長

はい、ありがとうございました。

ただいま説明がありました事務局の提案に関して、ご意見がある方ご発言ください。

横山委員

あのう、これは何て言ったかな。歴史と文化拠点整備の中で教育事務所の方と連携をしていただいて、小中学校と連携して取り組むっていう文言を入れていただいたのは良かったと思います。私が意見を言っておりました、何て言うんですか、伊勢志摩の方の文化って言うんですか、あれを子どもたちが継承してる、だから数少ない小中学生に美杉の地域の文化を何とかして守っていただく、継承、こんなことしてるんだってこと知っていただくっていうことが大事やと思うんです。これを入れていただいたのは結構かと思います。

それからもうひとつ、セラピーロードのところなんですけど、いつも私思っておるんですけど、今度あの、下之川の仲山神社、それからごんぼ会館を起点としてヒストリーパークの所までセラピーロードに昇格なったんですけど、その中に塚原ト伝屋敷跡っていうのがあるんですけど、それがすごく、もう何て言うんですか、私有林との境界の柵が壊れてしまったり、それから井戸の蓋が悪くなってきたり、それから看板が悪くなってきたりっていうのがあるんです。だからそれをそのセラピーロードの予算の方で直して下さいって話をしましたら、あれは教育委員会の管轄ですからって話が出て来たんですよ。だからそれは史跡として教育委員会の方がしていただいているかも知れませんが、セラピーロードの一環として、そこはその、どこがやる、ここがやるっちゃうんじゃないし、あの整備をして欲しいっていうようなことを考えておりますのでたくさんお見えになっておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

海住会長

これに関連したと言ひますか、いまの横山委員さんのご発言とちょっと関連してありますので、ここで私もひとこと話させていたひきたいと思ひます。

1年間、去年1年間、連合会長、自治会長やらしてもらって、いろいろこう下の方にお願ひに上がって、それから地区の元気づくりも地区長が持つてということで、元気づくりでありいろいろなことも長がついてきまして、いろいろな会議にも出る。そうすると、欲も出て良くしたい、地区も良くしたい、みんなが悩んでることやといろいろこう頭の中に詰まってきました。その時に、これをこのように言うてもらって、例えば、文化振興ですか、がここでやろうということで、昨年度も薪能やろうとそういう素晴らしい行事があります時に、振興課の方はあんまり知ってもらってない。元気づくりの会は多気には存在はしまして、地域には存在はしまして、それぞれの地区で地域づくりの会があるんで、その人たちにはこんなことやってもらえるんやって前向きになりかけたら、そこでもうひとつ大きな習慣と言ひますか、地域おこしができたんと違いかと大変もったいなと思ひます。あの課で違うことですが、わかるんです大変やということ。だけど、計画立案がざっとできた段階でひとつみんなに他の課にも流してもらい、地域にも流してもらい、そして意見を求めてもらって再度もう一回それをもらってスタートしてもらったら、せつかくやっていたかく行事が、お金をかけてやっていたかく行事がより一層地域おこしにも効果が出るんやないかということ常々思ひます。そやでいま課が違うでっていう、あの横山委員さんもそういう過去にはそういう経験をされてると思ひますが、私たちは初めてそういうところへ、こういう社会に入りますが、何でそんなことどうしてかと、もったいなとこう大変心に響きましたもんで、ひとつこれ

も意見の中でいつかは言わしていただくと思いましたが何とか加えていただいといます。

私ばかりしゃべって申し訳ない。

何かほかにありますか。

中野委員

すいません。

私いつもこういう文書で、とても気に引掛かるところがあるんです。

まず1ページ目のですね、子どもたちを育てるに当たっての心豊かなという、この文字が出て来るんですよ。心豊かなコミュニティのと、どういうことを持って心豊かな、田舎で育て生活すると心豊かになる、何か心豊かというとすごくいいような美化されて言葉を使われるんですけども、これを使われるに当たってどういうことを思って心豊かと表されているのか、是非ちょっとお伺いしたいんですけども。

決してね、例えば森林であっても1mの境、木1本の境でもめるんです。どこが心豊かかなくて、私いつもこの心豊かとか出て来るとすごい文章的には美しい、すごくいい人ばかり育てるような印象受けるんですけども、現実問題そんなことばかりではないんです。これ何を持って心豊かという、理想でしょうか、何でしょうか。もうちょっと一言お聞かせ下さい。

海住会長

この見解を述べて下さい。

田中地域振興課長

あの確かにおっしゃるとおりで、表現の仕方っていうのはどうしても豊かな部分であるとか、前向き、やっていくとか、そういった言葉をどうしても使いたがる部分があると思うんですけど、私、いま思っております、豊かになって言葉の上に何が付くんかっていうたら、金銭的とか、大概経済的に豊かであるとかそういう部分もある中で、その精神面、心っていうのは当然わざわざしなくってもってというニュアンスもあるかもわかりません。ただ、美杉の場合、私ども誰か亡くなった時にでもお互い助け合って、その助け合う中には確かに金銭的なこととか、言うてはいかんこととかある中に、お互い集落そのものが、先ほど芝山さんも言われましたように、お互い隣に居ても無機質になるというか、連絡取り合わない、心配しない、おばちゃん最近顔見てへんねっていうふうな、そういうふうな地域の中であって今既に心豊かな地域コミュニティっていうのは存在してるんでしょうけども、徐々に時代と過疎、高齢化の中でそういった部分が忘れ、そういったことではないような時代になってくるんじゃないか、隣が何してようと、しばらく顔見やんけど子どもとこ行つとるんやな、病院行つとるんかないうぐらいのことで。やっぱし、昔からの付き合いしとる

人々でなんか、共に心配しあう助け合う、そういったものはより一層必要なんじゃないかと。それを今私たちはつつい忘れがちになって、改めて原点に立ち止まって、立ち戻って自分たちが何をしなきゃいけない、隣とどうやっていかなきゃ、逆にいや自分たちが生活していけない。元を改め考えることを私は思って、この表現が適正かどうかわかりませんが、そういうふうな表現にさせていただいたという次第です。ちょっととりとめない話になって申し訳ありません。

海住会長

ありがとうございます。

心豊か、人によっていろいろな解釈もあるし、場合によっていろんな解釈があろうかと思いますが。

ほかにどうですか。

中林委員

いまのことに関連して、若干なんですけれども、人と人とのつながりってつきとめたところ何かあっていけば、おしゃべりじゃないかと思うんですね。単純な話で恐縮なんですけれども、私の実家の母が83で一人暮らししておりますが、この前資料にいただいた津市と似たような規模の似たような市っていうことで取り上げていただいた新潟県の長岡市っていう所で一人で住んでるんですが、何故一人暮らしが成り立っているかっていけば、交通手段が非常にこまめに張り巡らされてるっていうことと、そこそこの大き過ぎないまち、寂し過ぎないまちだから一人暮らしが成り立ってるんだなってことで私は有り難く思っているんです。そして津市の今いろいろ出てる問題と私にしてみたら、そのそういうことであります。その地域のあり方っていうものと時々見比べたりしてるんですが、その中で母が最近言った言葉にもうお金も大事だし、健康も大事だけど何が一番かって言えば、一番のご馳走、おしゃべりだよってこう言ったんですね。でもそれ、そうかっと思って一番最後にやっぱりくるのはその人間の孤独するっていうか、やっぱり人とのつながりっていう、今ここにもられたような言葉が、本当に私はこれ読みまして心豊か、私引っ掛かりませんでしたけど、心豊かって要するにどういうことかって言えば、人と人がおしゃべりを自由にできるって意味に置き換えれば、美杉ってところはそんなこと取り立てて言うまでもないその基盤があるわけですし、私などは毎日の暮らしの中で親しくおしゃべりした後で、別れた後で、今の方どなたなのかなって、どちらの方か何も知らないまんまコミュニケーションしているっていうことが毎日の生活ですので、これはこれで目標にしなくとも今現在まだまだこの地域は十分下地があるんじゃないかなと思っていますが、徐々に失われていくかも知れないので、そういう意味ではみんながこう意識してるっていうのは大事なことじ

やないかなと思います。

海住会長

はい、ありがとうございます。

このかがやきプログラムに上げていただいているものに上げてもらって、私どもの将来の生活設計、また自分たちで取り組んでいかんなんという大切な部分をいま出していただいているんかと思います。とっても大事なことで、ここをどうしてもこう本当の意味での輝やける、輝やきのしていくにはどうするのか、どうあるべきかということではないかと思います。

ほかにどうですか。

芝山委員

こうやって、たくさん書いてもらってあるのですけれど、中心になって進めていくというか、コーディネートしていくのは、どこになるのですか。

田中課長

事業主体として、美杉総合支所でやるところ、教育委員会美杉事務所でやるところ、健康福祉部となっているところもあります。前半お話がありましたように、福祉の部分であっても健康福祉部が取り組んでいかななくてはならないこともあります。地域かがやき事業の方で取り組んでいる部分につきましては、前期同様、たとえば、森林セラピー事業であったり、空き家情報の関係であったり、地域づくりの支援であったり、これは私どもの方が直接的にしておりますし、全般的にかがやき事業につきましては、森林セラピーにつきましては、商工観光部そういったところも事業主体となっております。その部門、部門で取り組んでもらっております。

芝山委員

ここにそうすると事業主体書いていただいている方が取り組んでいただいて、それからそれぞれの団体とか言うのを活用したろという取り組みですか。

海住会長

あのう、芝山委員さんがおってもうて言うんと違うんですが、この健康で元気な人づくり、暮らしの安心づくり、健康福祉部、それから美杉総合支所ほかって書いてもらってありますが、これは健康福祉部、福祉課いうか福祉センターや地域、地域福祉のモニターや。

違いますんやな、これは市の方ですな。そうすると、地域福祉等で一生懸命やってもらってますわ、住民にとりましても頼りに思うのですが、この辺りはこの関係ではケアをせんでええんでしょうか。ここはもう、ここはここで市だけで市の福祉課だけでして、福祉、市民福祉の自分らが一番密接に関係していると思ってた市民福祉などはどうなんでしょう。ここには、一緒に表れなくていいんでしょうか。

谷支援員

すいません。

それ今おっしゃってみえるのは、例えば地区社協とか、そういう地域の団体の方っていうイメージだと思うんです。であの、まず総合計画の後期もできるんですけども、津市がどういう部署でその筋目を進めていくかっていうのを書いたわけでして、そして総合支所と健康福祉部が例えば地域医療に関しては健康福祉部の医療の担当がございますので、そことうちとです。

福祉については地域に投げかけていく時には、そこで社協さんが助けて、協力、住民の協働っていった時の協働の相手は地区社協さんやったり老人クラブさんやったり、いろんな相手方あると思うんですけども、津市の事業として進めていく所管っていう意味でここには書いてあると思う。

横山委員

まず自分たち自身がやる気を出さないとできないと思うんですよね。だから、地域帰って、あれは区長さんがしなされることや、これは老人クラブの会長さんがすることやっていうんじゃないし、まず自分が何でも参加し、元気であれば参加し考えてやるっていう、そこが一番の基本じゃないかなと思うんです。それとか何を計画してみましても集まってきてくれる人、同じような人ばかり、役職の付いている人ばかりしか来てくれないっていうところがありますので、まずここへ集まってる者だけでも何かの時には自分たちでやろう、先ほど市長さんがJAに農協、広域は農協、農協とおっしゃってみえたんですよね、あれでもずっと前から言ってるんですよね。その団体をつくって自分たちでもやろうって。白山行きますと50町ぐらいが全部団体つくって農地、農業やってみえるんですけど、ああいう団体を耕地整理ができた土地だけでも美杉でもやれないことないですけど、一人ひとりがやる気ないんですよね。これは自分とこだけ守ってたらええっていうふうな事があるから、だからやる気持ちっていうんですか、やる気をそれぞれが年寄り年寄りに起していかなければならないと思いますので、私ももう今年も、去年から敬老会なんですけど、やっぱり情報発信に応じていろんな所へ参加してやっていきたいなと思いますので、若い人はもちろん頑張ってもらいたいと思います。だから自分たちの考え方が大事だっていうことを言っておきたいと思います。

海住会長

ちょっとこのかがやきプログラムの内容から外れましたが、大変これ大事なところですので、また元へ、こちらの方に戻っていただきたいと思います。

いまテーマにありましたように本当に一番私どもが、自分自身が考えましたようなことだと思います。またそれ別の分です。

かがやきプログラムの方のことでご意見ありませんか。

横山委員

かがやきプログラムを実施してくのに自分たちが大事なんだってこと言うたんですので、関係無いことないと思います。

海住会長

そう。多いにあるんだけど、この今の中味の検討についてお話したんです。

中林委員

何回もすいません。

さっき市長さんが言い残された中に、最後まで空き家が増えてきてても最後までお家で暮らせるようにしたいとおっしゃったように思うんです。それとその2枚目の真ん中2の地域医療体制の充実、在宅医療体制の充実っていうのは合致してると思うんですが、その中にかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の必要性を啓発っていうのがあるんですが、これはすごく具体的なようでいて実際どういうことを指しているのかなっていうことを思いました。というのは、昨日一志病院に行きましたら、7月から行われている訪問医療ですか、訪問治療そういう掲示がありまして、ここに書かれているこの在宅医療体制、それから地域医療体制の充実っていうことを、その具体化するようなことが書いてありまして、それとも絡んでこの2行は具体的どういうことを推し進めていきたいということなのか、そこをお考えでしょうか。

田中課長

今、議論させていただいているのが、南部エリア、美杉のエリアの事業について、地域医療体制の充実ということで、在宅医療の充実というように書かれております。当然、この件につきましては、今お話をいただきました分につきましては、健康福祉部等でお話をさせていただきながら、美杉の現状を含めて、そちらでの記述案をこちらからしていくものではございませんので、健康福祉部にこういう意見、美杉の中ではこういう意見が出ておりますとさせていただきたいと思っております。

中林委員

どういうことを指して言うのかと思います。かかりつけ医とかですね。

谷支援員

この項目につきましては、かがやきプログラムでないところの記述やというところは理解をいただいて、その文言の意味というのは、先ほども市長が申し上げておりましたけども、一次、二次、三次の救急医療体制というのが、きっちと整理されていない部分が今ありまして、一次で済むところを救急車を呼んで二次で対応してタクシー代わりの救急車とかいろいろ言われている部分がありますので、健康福祉部の所管としては、まず一次救急のかかりつけの病院、

診療所とか医院をまず持って、そこに相談した上で救急車を呼びなさいという仕分けをしていくという意味を書いたのがこれなんです。美杉もですね、医療のワークショップをやってもらったんですけど、一志病院を核にして、それぞれの診療所、かかりつけ医を持ちましょうということも言っておりますので、美杉もこういう進め方を後期もしていかならんと思うんですけど、文言としては津市全体で取り組んでいくんです。

海住会長

そのワークショップの続き、各地区へ一志病院の方から回ってもらうそうですので、その時には地域の方がたくさん参加していただいて、みんなで勉強してもらったと思いますので、よろしくをお願いします。

他にどうですか。

だいたい煮詰まってきたように思います。先ほども申しましたように、取りまとめたものを、みなさんにお配りして、津市の審議会の方へご報告をさせていただきますので、よろしくをお願いします。それでは、この後期基本計画をこれで締めたいと思いますがよろしいですか。

芝山委員

このように計画していただきまして、当初、この村をどのような形にできるかと思っておりましたが、先ほど中川委員が言ってもらったように、地域もおおいに活性化していった欲しいと聞かせてもらいまして、こういう計画も立てていただいて、決して送りびと的な地域にしていこうという方向ではないと思いましたので、お詫びをしながら、発言をさせていただきました。

海住会長

今回の意見も参考に、美杉地区地域審議会として、後期計画における地域かがやきプログラムの記述案とし、提言をいたしてまいります。

なお、この記述に係る意見及び先ほどご論議いただきました津市総合計画審議会への提言、また関連部局などと意見調整されたものなどが後期基本計画の試案となり、再度、当審議会に提示されることとなります。

当審議会の開催期日は、後期基本計画の策定のための他の関係部署との調整もあるとのことですので、後日改めて通知連絡させていただくとの事務局の提案です。よろしいですか。

本日の議題は以上でございます。これで、第5回の美杉地区地域審議会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

〈終わり〉